

修士論文（要旨）

2020年1月

介護スタッフが実施する排泄ケアの現状と適切なケアを継続しているプロセス

指導 長田 久雄 教授

老年学研究科

老年学専攻

218J6010

山下 菜穂子

Master's Thesis(Abstract)
January 2020

The Current Status of Excretion Care Provided by Caregivers and the Process of
Continuing Appropriate Care

Naoko Yamashita
218J6010
Master's Program in Gerontology
Graduate School of Gerontology
J. F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Hisao Osada

目次

I はじめに 研究背景

1.1 高齢者の現状と介護人材の必要数	1
1.2 介護の定義と排泄ケアに関して	1
1.3 不適切ケアの概要と排泄ケアに関する実態	1
1.4 不適切ケアと高齢者虐待の関連性	2
1.5 排泄ケアと介護福祉士に関する先行研究	3
1.6 不適切ケアに関する先行研究	3
1.7 高齢者虐待に関する先行研究	4
1.8 先行研究の到達点	5

II 研究目的

2.1 研究目的と意義	5
2.2 用語の操作的定義	5

III 研究方法

3.1 研究対象	6
3.2 研究方法	6
3.3 倫理的配慮	6
3.4 分析方法	6

IV 研究結果

4.1 対象者の概要	7
4.2 排泄ケアの現状	7
4.3 排泄ケア実施時に抱く思いのカテゴリ化	7
4.4 M-GTA の分析から生成された概念と形成されたカテゴリ	8
4.5 ストーリーライン	9
4.6 概念、カテゴリの詳細	10

V 考察

5.1 適切なケアを継続する視点	21
5.2 不適切ケアへの低減に関する視点	22
5.3 教育・知識・介護技術等に関する視点	23
5.4 無心でケアすることと適切なケアの関係性について	23

VI 本研究の限界と今後の課題

23

謝辞

文献

図・表・分析ワークシート概念 1～28

介護福祉士をはじめとする介護職員は、養介護施設で生活する高齢者の日常生活を支える重要な専門職であり、排泄ケア、食事介助、清潔ケアが大きな日常生活援助であるとも言われている。排泄ケアは高齢者の尊厳にもかかわる重要なケアであるが、同時に介護職員にとってストレスや介護負担も大きいケアであるとも推測される。実際に高齢者虐待に移行する前の「不適切なケア」は「排せつ・入浴」に関するものが多く、不適切ケアを低減させていくことは高齢者虐待防止のためにも重要なことである。しかしながら、その介助を実際に行っている介護職員が排泄ケアに対し、どのような思いを抱き、どう対応しながらケアを実施しているのか明らかにしたものはみられない。そこで、介護職員が1勤務帯に関わる排泄ケアの現状と排泄ケア時に抱く思いを明らかにし、排泄ケアに関して、適切なケアを継続するためのプロセスについて明らかにすることを目的とした。

対象者の概要は、男性6人女性7人、年齢は25～50歳であった。13人中12人が介護福祉士であり、介護経験年数は3～22年であった。排泄ケアを行った延べ人数は、日勤帯（8時間）中11～30人、夜間帯勤務（平均10.8時間）中では34～51人だった。総ケア時間については、日勤帯13人中9人が110分以上の時間を費やし、夜勤帯では、有効回答12名中178～455分（平均260分）であった。ケア内容に関しては、日勤、夜勤とも同様の結果であり、ケアのきっかけは定時誘導が最も多く、次いで介護士の判断であった。排泄の状況は排尿のみがほとんどで、尿取りパッド交換と陰部清拭のケアが多くを占めた。夜間もほぼ介護スタッフ1人で実施していた。

介護スタッフが排泄ケア実施時に抱く思いは、大きく【排泄ケアに関連した嬉しい気持ち】【排泄ケアに関連した気に掛ける、気遣う心】【排泄ケアに関連した推測】【排泄ケアに関連したアセスメント・介護実践】【排泄ケアに関連した忌避感】【排泄ケアに関連した介護技術を顧みる】【排泄ケアに関連した勤務の願い】の7つの思いを抱くことが明らかとなった。

適切なケアを継続するためのプロセスにおいては、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる分析を行った。以下の結果はカテゴリを《 》概念を「 」で示した。

日々排泄ケアに携わる介護スタッフは「認知症ゆえの言動として理解して受け入れ」たり「相手の立場で考えてみる」というように《対象者への深い理解》をもっている。日々の排泄介助の中では「排泄ケアに伴う負の感情を自覚する」ことも多い。この負の感情に対し、介護スタッフは「対象者を前に感情が動くのは当然のこと」として受け止めつつも根底にある《対象者への深い理解》から「負の感情を自分なりに転換してバランスをとり」「腹立たしい感情を利用者に向けてはいけないと自覚」し「負の感情を自覚したら一時的に距離を置く」「負の感情を自覚したら一人で対応しない」「負の感情にSOSを出して互いに分かり合う」といった対応を行って、うまく「自分の感情を発散させる方法」を見つけ《負の感情を自覚しコントロール》することを行っている。反対に「排泄リズムを作り排便があった時のよろこび」や「ケアがうまくいったときのよろこび」そして「対象者の肯定的反応がうれしい、支えになる」といった《ケアするよろこび》も感じている。また「相手の立場で考え」、自分の「ケア技術の未熟さを反省」し、「同僚、先輩から学んでいく」「よりよいケアを目指してトライする」という《ケア技術への向上心》をもっている。その一方で「お金を頂く仕事との意識でやっている」、「仕事と割り切り、無心でケアする」

といった《現実への適応》としてケアを実施している場合もある。このような《対象者への深い理解》を中心に《ケアするよろこび》を感じ《ケア技術への向上心》をもち、時には《負の感情を自覚しコントロール》している3つの状態を行き来しているのは、介護スタッフが単独で行き来しているわけではなく「チームの支えあいなくしてケアはできない」というように、チームの存在が介在し、「より良いケアをチームで検討」したり「スタッフ全員でケア技術の向上を図ることが大切」だと感じ、「次の勤務者に迷惑かけないように配慮」したり「多職種でコミュニケーションをとるように心がける」など《チームケアで支えあ》っている。そのような中で、日々実施する排泄ケアに対し「生きるうえで欠かせない排泄をケアすることの重要性を自覚」し「基本ギリギリまでトイレでの排泄を支えたい」「対象者に恥ずかしい、がまんしようと思わせないケアがしたい」という《排泄ケアに関わる介護スタッフとしての責任感》が生まれ、この《排泄ケアに関わる介護スタッフとしての責任感》と《チームケアで支え合う》《対象者への深い理解》が相互に作用して、適切なケアを実施している。この適切なケアを実施するまでのプロセスは明らかにできたが、どのように継続しているのかについての最終的な到達点の解明にはいたらなかった。

【引用文献】

- 1) 内閣府：「平成 30 年度版高齢社会白書（概要版）」
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/gaiyou/s1_1.html
(2019. 12 最終アクセス)
- 2) 厚生労働省：「厚生労働省における高齢者施策について」
<http://www.moj.go.jp/content/000123298.pdf> (2019. 12 最終アクセス)
- 3) 厚生労働省：「平成 28 年度介護保険事業状況報告（年報）」
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450351&tstat=000001031648&cycle=8&tclass1=000001113661> (2019. 12 最終アクセス)
- 4) 内閣府「平成 29 年度版高齢社会白書（全体版）」
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/zenbun/s1_2_3.html
(2019. 12 最終アクセス)
- 5) 厚生労働省：「平成 28 年度厚生労働省老人保健健康増進等事業介護人材の需給推計に関する調査研究報告書」
https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/pdf/170331_kaigojinzai.pdf
(2019. 12 最終アクセス)
- 6) 江見三枝子，中谷由美子ほか：「臨床看護・介護における対応困難状況の発生頻度と対処方法の分析」看護技術. 2005. 51 巻 7. p641-644
- 7) 柴尾慶次：「施設内における高齢者虐待の実態と対応」老年精神医学雑誌. 2008. 19 巻 12. p1325-1332
- 8) 横山さつき：「介護職員による不適切ケアの発生に関連する要因の検討」高齢者虐待防止研究. 2019. 15 巻 1 号. p40-52
- 9) 厚生労働省：「Ⅰ 高齢者虐待防止の基本」
<https://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/boushi/060424/dl/02.pdf>(2019. 12 最終アクセス)
- 10) 特定非営利活動法人地域ケア政策ネットワーク：「身体拘束及び高齢者虐待の未然防止に向けた介護相談員の活用に関する調査報告事業」
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/52_tii_kikea.pdf (2019. 12 最終アクセス)
- 11) 多々良紀夫：「家庭内における高齢者虐待に関する調査；全国調査（機関調査）の結果の概要」高齢者虐待防止研究. 2005. 1 巻 1 号. p46-59
- 12) 厚生労働省：「平成 29 年度「高齢者虐待の防止，高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果」
https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000196989_00001.html(2019. 12 最終アクセス)
- 13) 厚生労働省：平成 29 年度「高齢者虐待の防止，高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果 資料 1
<https://www.mhlw.go.jp/content/12304250/000491671.pdf> (2019. 12 最終アクセス)
- 14) 社会福祉法人 東北福祉会認知症介護研究・研修センター：
「施設・事業所における高齢者虐待防止学習テキスト」
http://www.dochoju.jp/soudan/pdf/study_text.pdf (2019. 12 最終アクセス)

- 15) 後藤満枝, 内野秀哲:「介護学生の排泄介護に対する抵抗感と排泄介護のとらえ方の関係」ライフジャーナル. 2015. 6巻1号. p1-10
- 16) 岩坪泰代, 中村京子ほか:「高齢者の排泄自立のための取り組みの研究福祉職を目指す学生の実習体験から」医療福祉研究. 2011. 5号. p47-57
- 17) 倉鋪桂子, 永田寿子ほか:「介護老人福祉施設における介護職者のケア認識発展のプロセス-オムツに関する排泄ケアを通して-」宇野フロンティア大学看護学ジャーナル. 2010. 3巻1号. p41-46
- 18) 岩坪泰代, 中村京子ほか:「排泄障害に係る現場支援者意識 全国調査結果にみるチームワーク上の課題」国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要. 2009. 5巻. p75-80
- 19) 山下菜穂子, 中澤明美:「高齢者虐待防止に関する研究動向の分析と今後の課題」和洋女子大学紀要. 2019. 60集. p153 - 161
- 20) 松本望:「虐待リスクが高い利用者要因とその対策養介護従事者へのインタビュー調査をもとに」高齢者虐待防止研究. 2019. 15巻1号. p53-63
- 21) 吉田輝美:「養介護施設従事者がとらえる高齢者虐待発生要因とその再発防止策」厚生指針. 2016. 63巻6号. p33-40
- 22) 林真二:「養介護施設職員の虐待予防研修の受講と虐待及び予防意識との関連」日本赤十字広島看護大学紀要. 2015. 15巻. p59-68
- 23) 木下康仁:「ライブ講義 M-GTA:実践的質的研究法修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて」弘文堂. 2007
- 24) 養介護施設従事者等による高齢者虐待の対応の手引-高島市 p6-7
http://www.city.takashima.lg.jp/www/contents/1538445173971/simple/gyakutaiboushit_ebiki.pdf (2019. 12 最終アクセス)
- 25) 六角僚子:「認知症ケアの考え方と技術」医学書院. p125
- 26) 社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター:「介護現場のためのストレスマネジメント支援テキスト」p6. p23
https://www.city.funabashi.lg.jp/jigyou/fukushi_kosodate/001/05/p070949_d/fil/61_2.pdf (2019. 12 最終アクセス)
- 27) 久保真人:「バーンアウト(燃え尽き症候群)-ヒューマンサービス職のストレス」日本労働研究雑誌. 2007. p54-64

【参考文献】

- 江見三枝子, 中谷由美子, 福田英子他(2005). 臨床看護・介護における対応困難状況の発生頻度と対処方法の分析, 看護技術, 15 (1), 641-644
- 大冢賀政昭, 東野定律, 筒井孝子, (2011). 介護老人福祉施設において夜間・深夜時間帯に提供されたケアの実態と時間別ケア内容の推移, 介護経営, 6 (1), 91-101
- 東京都福祉財団, (2015). 平成 27 年度 高齢者虐待防止事例分析検討委員会報告書, 14-18,
<https://www.dcnnet.gr.jp/pdf/download/support/research/center3/61/61.pdf> (2019. 12 アクセス)
- 特定非営利活動法人 地域ケア政策ネットワーク, (2017). 身体拘束及び高齢者虐待の未然防止に向け

- た介護相談員の活用に関する調査研究事業 報告書 7, 20-24
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/52_tiikikea.pdf
(2019.12 アクセス)
- 総務省. (2019). 総務省報道資料 統計トピックス No.121 統計からみた我が国の高齢者-「敬老の日」
にちなんで- <https://www.stat.go.jp/data/topics/pdf/topics121.pdf> (2019.12 アクセス)
- 内閣府, (2018). 内閣府 平成 29 年度版高齢社会白書 (概要版)
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/gaiyou/s1_2_3.html (2019.12 アクセス)
- 二木泉, (2010). 認知症介護は困難かー介護職員の行う感情労働に焦点をあてて -, 社会科学ジャーナル, 69, 89 - 118
- 古川和稔, (2015). 介護職員のストレス, 日本労働研究雑誌, 658, 26-34
- 長谷川美紀子, (2008). 介護援助行為における感情労働の問題, 淑徳短期大学紀要, 47, 117 - 134
- 横山さつき, (2019). 介護職員による不適切ケアの発生に関連する要因の検討, 高齢者虐待防止研究, 15 (1), 40-52
- 梅崎かおり, 堀内ふき, 浅野裕子, (2015). 介護老人保健施設で働く看護職・介護職の認知症高齢者の尿意の判断とおむつ使用に対する意識調査, 佐久大学看護研究雑誌, 7 (1), 35-43
- 矢野美和, (2015). 自立支援介護が与える影響-排泄の自立への取り組みと介護職員のモラル -, JSCI 自立支援介護学, 9 (1), 10 - 17
- 影山仁美, 小北恭子, 葉山裕子, (2016). 患者様への適切な介護とは? 不適切なケアに対する意識調査を通して, Archives of Kohno Clinical Medicine research Institute, 31, 13-16